



ボランティア登録前の研修の様子

平成十二年度

建築工事竣工

外構工事

展示工事

野外展示工事

収蔵品等の移転

平成十三年度

開館準備

夏開館

## 七 ボランティアの導入

文化財センター白河館では、「地域に開かれた、親しまれる施設」、「館の活動の活性化」を目指し、平成十三年夏の開館と同時に、ボ

ランティアを導入します。

当館では、ボランティアを、「館の活動を支える支援者」、「当館と来館者をつなぐ連携者」、「活動を通じて自己啓発する学習者」と位置付けています。

平成十三年度ボランティア導入のために、本年度から計画的に「登録前研修」を実施しています。登録前研修は、本ボランティアの概要や趣旨を御理解いただき、各自の適性や希望を自ら判断することを、目的としています。

第一回の登録前研修は、八月二十二日(日)に白河市で実施し、約六十名の参加者を得ました。研修では「文化財センター白河館の概要」や「ボランティアの考え方」を説明し、「体験学習実演」の一端に触れていただきました。

第二回は十一月十四日(日)を予定し、山形県立うきたむ風土記の丘資料館、山形県高島町まほろば古の里歴史公園の視察を予定しています。

## 八 展望

福島県文化財センター白河館(仮称)は、本県の文化財保護の拠点施設として、平成十三年夏の開

館を目指しています。

収蔵・保管のみならず、展示・公開や研修を行う専用の施設としては、全国的に数少なく、注目を集めています。

文化財を死蔵することなく、広く県民に公開し、活用して、県民の文化財保護の意識の啓発に資すると

ころは多大であることと思えます。

現在検討中の、文化財の調査・研究の拠点施設である福島県文化財センター安達館(仮称)の整備が進展すれば、白河館の機能も一層充実することができ、県民の期待に十分応えることができると考えています。

